

九州電力 川内原子力発電所 設置変更に関する審査

ご質問への回答

- 福島第一原発事故の教訓は、どのように反映されたのですか？
- 日本の新規制基準は本当に「世界最高」の水準なのですか？
- 福島第一原発事故の原因究明が終わらないまま、審査をして良いのですか？

- 川内原子力発電所の安全は保証されたのですか？
- 川内原子力発電所の安全性はどのくらい高まったのですか？
- 具体的な設備や手順について審査が不足しているのではないですか？ また、審査では施設（ハード）の確認に偏っていて、事故対応の体制（ソフト）についてきちんと確認されていないのではないですか？
- 審査では専門家の意見をもっと聴くべきではないですか？

- 自然現象の「想定」は十分ですか？ 最近の異常気象も踏まえ、巨大台風や土石流などに対応できますか？
- 専門家には反対意見もあるようですが、川内原子力発電所の火山対策は十分ですか？ 巨大噴火のリスクをどのように審査したのですか。
- 航空機が墜落したり、人工衛星が落下しても大丈夫ですか？

- 重大事故が起きれば、十分な電源や作業者の食糧などが必要です。どれくらいの期間、自力で対応できるのですか？
- 52名の人員で重大事故対応が可能ですか？ 緊急時に発電所員が現場から逃げ出すこともあり得るのではないですか？
- 緊急時対策所は狭くて人が入りきれないのではないですか？

- フィルタ付きベントなどの設置に猶予期間がありますが、安全上問題はないのですか？
- 欧州で取り入れられている最新技術（コアキャッチャー、格納容器の二重化等）が、日本では取り入れられておらず不十分ではないですか？
- 川内原子力発電所の老朽化は大丈夫ですか？
- 地域の防災計画や避難計画について十分議論されたのですか？ 事故のときには、避難に必要な情報がきちんと提供されるのでしょうか。

●福島第一原発事故の教訓は、どのように反映されたのですか？

○原子力規制委員会では、福島第一原子力発電所の事故の教訓を踏まえ、新たな規制基準を策定しました。

○事故の教訓として、具体的には、地震・津波といった共通の要因によって安全機能が一斉に失われないよう、地震や津波をはじめ自然現象等の想定と対策を大幅に引き上げました。

○また、事故の進展を食い止めることが出来なかったという教訓を踏まえ、重大事故の発生防止にとどまらず、万一重大事故が発生してしまった場合に、事故の拡大を防ぐ対策や影響緩和の対策などを新たに要求しました。

○こうした新規制基準については、既設の原子炉にも適用することとしています。

●日本の新規制基準は本当に「世界最高」の水準なのですか？

○原子力規制委員会では、東京電力福島原子力発電所事故調査委員会（国会事故調）などでの指摘を踏まえ、国際機関や諸外国の規制基準も確認しながら、我が国の自然条件の厳しさ等も考え合わせて、世界で最も厳しい水準の規制基準を策定しました。